

甲斐武田氏終焉の地

所要時間(往復)
 徒歩 3時間
 車 30分

甲州市

大和

応永二十四年(1417)、上杉禅秀の乱に味方した甲斐国守護武田信満は、鎌倉公方側の軍に追い詰められ、木賊山(天目山)で自害した。さらに天正十年(1582)、織田・徳川軍から逃れるため、岩殿城を目指したが入城を拒否された武田勝頼は、天目山へ向かう。そして、夫人、嫡男信勝らと共に田野の地で最期を迎え、ここに名門甲斐武田氏は滅亡した。

③② 土屋惣蔵片手斬跡
 つちやそぞうがたてぎりあと
 武田勝頼が移動する時間を稼ぐため、家臣の土屋惣蔵昌恒が片手で追手と戦ったという伝説が残る地。甲州市指定史跡。



③② 土屋惣蔵片手切

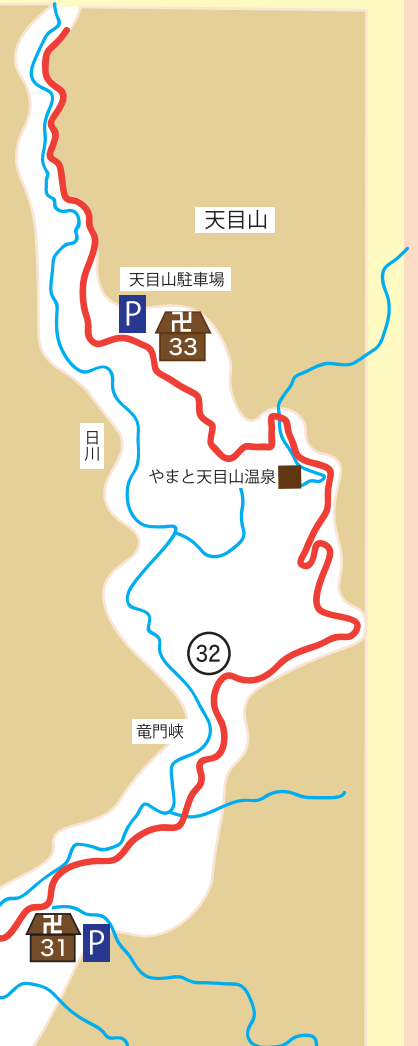
③③ 栖雲寺
 せいうんじ
 元(中国)に渡り、杭州天目山で中峰明本に師事した業海本浄が、帰国後、甲斐国木賊山中に至り、貞和四年(1348)に創建した。境内には武田信満の墓とされる宝篋印塔がある。また、業海の作とされる庭園は県指定名勝。



③③ 栖雲寺



武田信満の墓と伝えられる場所



旧甲州街道の宿場。南東に笹子峠がある。

勝頼の夫人北条氏の侍女たちが身を投じたといわれる場所。

③① 鳥居畑古戦場跡
 とりいはたかせんじょうあと
 駒飼口から攻め寄せる織田・徳川の軍勢に対し、勝頼勢らが少数で迎撃したという激戦地。甲州市指定史跡。

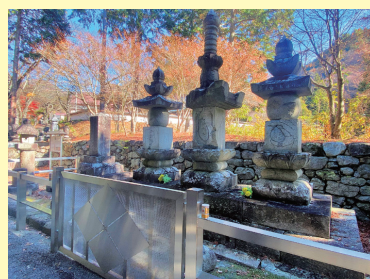


③① 鳥居畑古戦場跡

③① 景德院
 けいとくいん
 武田勝頼らの菩提寺として徳川家康が建立に着手し、天正十六年(1588)頃に完成した。安永四年(1775)の勝頼遠忌二百年に際して建てられた勝頼一族と家臣団の墓がある。保存修理による墓の解体時に五千点を越える経石が出土している。山門は県指定有形文化財、境内と勝頼の墓は県指定史跡。



③① 景德院



武田勝頼らの墓